

IV 英国における動物虐待判例

(文・写真はすべて RSPCA 提供)

1. ケント州在住の夫婦が収監される



2003 年ケント州在住の夫婦（夫 32 歳・妻 25 歳）が 2002 年に飼育禁止を命じられたにもかかわらず、その命令に従わず、複数の子猫に不必要な苦痛を与えたことを認め、ダートフォード下位裁判所に

おいて 120 日の懲役を命じられた。住所不定の妻の兄（36 歳）も命令に従わず、複数の猫に不必要な苦痛を与えたとして 200 時間の社会奉仕と 100 ポンドの費用の支払いを命じられた。3 人とも生涯動物飼育禁止を命じられた。もう一人の兄弟（20 歳）は、複数の猫に不必要な苦痛を与えたとして 5 年間動物飼育禁止、100 時間の社会奉仕、50 ポンドの費用の支払いを命じられた。査察員が、通報を受け彼らの家を訪問したときには、家の中にやせて目やにだらけの子猫が 10 匹いた。すぐに獣医師の元に連れて行き治療を受けさせたが、そのうちの一匹は症状が重くて安楽死をせざるを得なかった。子猫と 2 匹の成猫は RSPCA が飼い主に所有権放棄をさせて引き取り、すべて新しい飼い主に引き取られた。数ヵ月後に別の通報を受け、再度この家を訪れると、5 匹のやせこけた子猫らが不衛生な状態の中で生きており、目の感染症と白癬にかかっていた。この子猫たちも RSPCA が飼い主に所有権放棄させて引き取り、新しい飼い主を見つけた。

2. 馬のディーラーがサラブレッドを飢えさせ、飼育禁止を命じられる。

2003 年、馬のディーラーの男性（55 歳）は厩舎で 2 頭の馬を飢えに苦しませた罪でダートフォード下位裁判所において 10 年間の馬の飼育禁止、180 時間の社会奉仕と RSPCA に 1400 ポンドの費用を支払うように命じられた。また、電子タグを取り付けられ、2 ヶ月間は月曜～金曜の午後 8 時～午前 6 時は外出禁止を命じられた。

査察員が通報を受けて、その厩舎を訪れると、人の目に触れないように厩舎ブロックの蔭で飼育されていた 2 頭の馬は、6 インチ（15.24 センチ）も堆積した糞の上に立ち、背中の毛が完全に抜け落ち、骨と皮の状態であった。馬は、直ちに獣医師の元に連れて行かれ、健康チェックされ、RSPCA で治療を受けた結果、健康を回復し、新しい飼い主に引き取られた。



Before



After

3. 飼い犬のフットボール大の腫瘍を放置

RSPCA が、フットボール大の腫瘍を持ったラブラドル系雑種の飼い主を訴え、2003 年、ロンドン市在住の男性（53 歳）はその犬の世話を怠ったことを認め、100 ポンドの罰金と 1,127 ポンドの費用の支払いを命じられた。



彼は、病院にかけるお金がなかったとして、巨大な潰瘍化した腫瘍を放置した。犬はまた、ノミアレルギーと歯の疾患、爪の伸びすぎ、耳の腫れに苦しんでいた。犬は没収されて、動物病院で治療を受けた後、RSPCA の犬舎から新しい飼い主に引き取られた。

4. ペットを不衛生に飼育し生涯動物飼育禁止

2003 年、ハンプシャー州で犬 12 頭・フェレット 2 匹・ヨウム 1 羽を自宅で不衛生な状態で放置していた女性（49 歳）が、裁判所で、15 頭すべての動物に対し、不必要な苦痛を与えたことを認め、生涯動物飼育禁止、240 時間の社会奉仕と 200 ポンドの費用の支払いを命じられた。3 頭の子犬を含め、ほとんどの動物が小さなケージに入れられ、糞尿まみれになっていた。中には動物の上に動物が重なっている状態のものもいた。餌や水は与えられておらず、動物たちは元気で脱水状態だった。1 頭のミニチュア・イングリッシュ・ブルテリアは口の周りに治療されないままの咬み傷があり、脚も咬まれて腫れていた。ヨウムは何週間も掃除されていないケージで飼われていた。15 頭は飼い主から没



収され、すべて、新しい飼い主が見つかった。査察員は、「犬たちの QOL（生活の質）はなきに等しかった。たまに運動のために外に出されることはあっても、ほとんどの時間は移動用のケージに詰め込まれていた。犬たちは元気がなく、自分の糞の上に立ったり、座ったりするしかなかった。」とコメントした。

5. 小さな囲いの中で飼育されていた毛布状の毛玉に覆われた犬

2003 年、ケント州在住の産業化学者の男性（58 歳）が、飼い犬の毛の手入れをしなかったために、犬の被毛は大きく不快な毛玉となった。



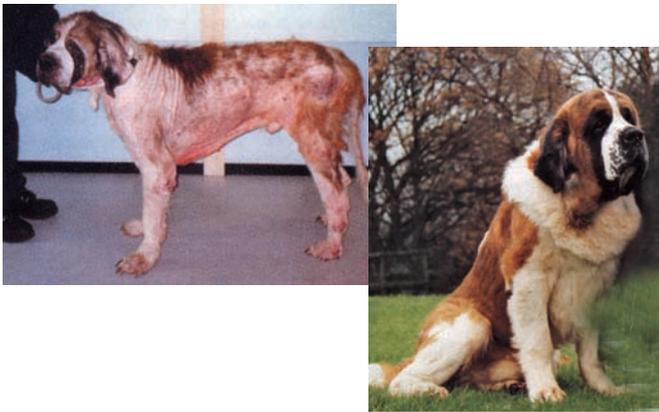
男性は犬に不必要な苦痛を与えたとして、33 ヶ月間の動物飼育禁止、150 ポンドの罰金、1,948 ポンドの費用の支払いを命じられた。男性の妻（51 歳）は不必要な苦痛を与えたことを認め、3 年間の動物飼育禁止、150 ポンドの罰金、4,372 ポンドの費用の支払いを命じられた。犬（コッカー・スパニエル）は 5 歳にもかかわらず、無気力で、耳や胸の被毛には泥や糞が大きな堆積物となってぶら下がり、目は濁っていて炎症をおこしており、顔の周りの被毛は潰瘍による分泌物がみられ、非常に不快な刺激臭を放っていた。犬は、獣医師の治療を受け、RSPCA によって、新しい家庭に迎えられた。

6. セント・バーナード犬を虐待し、生涯動物飼育禁止に

2003 年、リー在住の夫婦は、飼っていたセント・バーナード犬に不必要な苦痛を与えたことを認め、ウィガン下位裁判所において生涯動物飼育禁止と夫（55 歳）は、180 時間の社会奉仕と 500 ポンドの費用の支払い、妻（45 歳）は、750 ポンドの罰金と 500 ポンドの費用の支払いを命じられた。RSPCA の査察員は、犬保護官が野良犬として通報を受けたセント・バーナードを公

園で見つけ、犬保護官に通報したという夫婦の家を訪れた。査察員はほかに2頭のセント・バーナードを飼育していたこの夫婦を不審に思い調べると、野良犬と通報されたこの犬は、通報した夫婦の所有でクラフツ・ドッグショーでベスト・オブ・ブリードを受賞していたことがわかった。この犬のブリーダーを探し当て、ブリーダー夫妻は歯や被毛の柄で、自分たちが繁殖した犬であると断定した。

5歳のこの犬は、RSPCAが発見したとき、ひどく脱毛し、白癬にかかり、しらみが寄生し、ふさがっていない傷、かさぶた、そして目と耳の病気があり、非常にやせていた。この犬は、ブリーダー夫妻の所に戻り、温かい家庭を満喫している。



7. 犬を吊り下げるといふ虐待で6ヶ月の間刑務所へ

2004年、ダービシャー州在住の男性(28歳)が元ガールフレンド(いまだ同居中)の犬2頭を吊り下げたとしてチェスターフィールド下位裁判所は動物虐待の最高刑の6ヶ月の投獄と5年間のすべての動物の飼育禁止を命じた。

ブラックコリーミックスのCuddlesとラブラドルミックスのSandyの2頭は、ハドフィールドの公園で地面から6フィートのところに吊り下げられているのを、子供を含む数人の人が目撃していた。

8. 不潔な家から70匹以上の動物救助

RSPCAの査察員はケンブリッジシャー州の3兄弟(男性60歳・女性66歳・女性52歳)の不潔な家で、1階では野生の群れの行動に戻った多数の犬が徘徊しているのを、別の部屋からは飢餓状態のウサギの入った恐ろしく汚い小屋、2階ではビニール袋の中に猫の死体、ベッドルームで



はセキセイインコ、オカメインコ、カナリヤとネズミが床を走り回っているのを発見した。この家のラウンジカーペットは糞尿にまみれ、裏部屋はさらにひどく床は排泄物で完全に埋め尽くされていた。犬はダイニングルームのテーブルの上に乗し、空のドッグフードの缶を漁っていた。ドアには噛んで開いた穴があった。

2004年、キングズリン下位裁判所において、60歳の男性は30匹の動物(すべて没収)に不必要な苦痛を与えるなど14の罪を認め、生涯の動物の飼育禁止(馬1頭、犬1頭、ケージで飼育されている1組の鳥を除く)が言い渡された。52歳の女性は飼育禁止の判決に対して上告し、彼女には2頭の犬、ガチョウ、鶏、馬の飼育が許可された。彼らの罰金は総額2,300ポンドとなった。

RSPCAが、この家から犬45頭、ウサギ19匹、セキセイインコ5羽、オカメインコ2羽、猫1匹、チンチラ1匹、モルモット1匹、カナリヤ1羽を救助するのに11時間以上かかった。

9. ポニーのネグレクトで25年間の馬飼育禁止

2004年、テイド・セント・ジル在住の58歳の男性は5頭のポニーをほとんど歩くことのできないスペースで放置し、不必要な苦痛を与えたことにより、裁判所から25年間の馬の飼育禁止、3,000ポンドの罰金及び180時間の地域社会奉仕を命じられた。5頭のポニーはかな



の肥満と手入れの放置のために過成長した蹄が原因の慢性の蹄葉炎に陥り、ひどい痛みのため、歩きたがらない状態であった。また、敷地内のイラクサを食べていたことにより、唇が腫れていた。

RSPCAにより、5頭のポニーは保護され、馬の専門医による検査と治療、装蹄師による蹄の手入れによってポニーの状態は改善し、無事に新しい飼い主も見つかった。

10. 犬のネグレクトで10年間の飼育禁止、1,000ポンドの費用の支払い命令

2004年、ニューキャッスル下位裁判所は、スタフォードシャー州の55歳の男性に対して、飼い犬のウエストハイランドテリア12歳に必要な世話を与えなかった（ネグレクト）として10年間のすべての動物の飼育禁止とかけた費用1,000ポンドの支払いを命じた。

この犬・ウイスキーは屋外の劣悪な環境の中で、毛がからみマット状になって、ほとんど歩けない状態になっ



ていた。ウイスキーは痛みや不快からとても攻撃的であったが、診察のために犬を捕獲した。背部に大きな潰瘍化した腫瘍があった。ウイスキーは麻酔をかけられ、1時間半かかって毛を刈られ、膿でぐらぐらの歯8本抜歯し、去勢手術も行った。

飼い主はウイスキーをRSPCAの保護下に移すことに同意し、11日後には抜糸ができ、性格も大いに改善された。ウイスキーには無事新しい飼い主が見つかった。

11. ジャーマンシェパードの虐待に対して飼育禁止

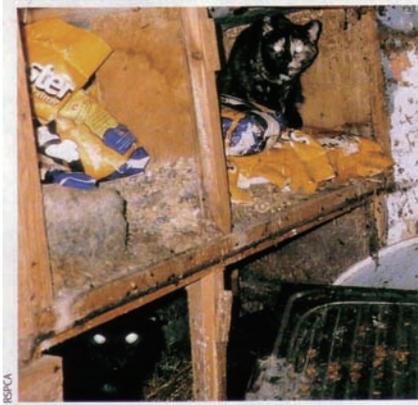
2004年、タムワースの下位裁判所はスタフォードシャー州在住のカップル（どちらも21歳）に対して、ジャーマンシェパードの飼い犬マックスに不必要な苦痛を与えたとして、10年間の犬の飼育禁止、罰金150ポンド、費用350ポンドの支払いを命じた。



マックスは、すぐに獣医に診せられたが、とても痩せており、腰、脊椎、骨盤、肋骨が浮き出していた。体重はこの犬種の通常体重の半分（13.05kg）しかなかった。その後、順調に回復、体重も増加中である。マックスには無事に新しい飼い主が見つかった。

12. 動物福祉団体の管理人の動物虐待に対して飼育禁止

2004年、リバプール下位裁判所は、動物慈善団体であるリバプール・キャット・ウェルフェアの管理人夫婦（妻45歳、夫52歳）に対し、動物虐待の罪で、妻には生涯すべての動物の飼育禁止を言い渡し、夫婦それぞれに費用500ポンドの支払いと120時間の地域社会奉仕を命じた。妻は猫27匹、子猫4匹、ウサギ5匹に不必要な苦痛を与えた罪を認めた。この夫婦は



1年近くRSPCAの調査を回避していたが、やっと、調べることができた。2人のRSPCAの査察員は、その閉じられたドアの向うで発見した状態にショックを受けた。

ケージに閉じ込められた犬や猫は積み重なるように詰められており、底の部分に蓄積した糞のために、ほとんど立つことができない状態であった。ひどい悪臭が漂い、ハエの群れが家の周りを飛んでいた。ドアノブに掛けられた買い物袋には、犬の糞でいっぱい、ゴミと糞の塊と尿にまみれたゴミ袋が床に散乱していた。RSPCAは猫30匹、子猫3匹、ウサギ5匹、ネズミ2匹、ハト2羽を保護した。ほとんどの動物には、新しい飼い主が見つかったが、残念ながら、ハト2羽は、病気のため安楽死された。

13. ポニーに対する虐待で女性馬所有者に飼育禁止命令

2004年、ピーターバラ下位裁判所はケンブリッジシャー州在住の女性（45歳）に対し、飼っているシェットランドポニーに不必要な苦痛を与えたとして、2ヶ月の投獄と3年間のすべての馬の飼育禁止が言い渡された。（一審では生涯の飼育禁止であったが、抗告審判により、3年間の飼育禁止になった。）この飼い主は、RSPCAと獣医師の度重なる忠告を数ヶ月間無視し、13



歳のシェットランドポニー、マーブルの蹄葉炎及び蹄の伸びすぎで歩行困難な状態を放置していた。かつ、そのような状況にもかかわらず、飼い主はマーブルをチャリティーイベントの子供乗馬用に参加させ、状況をさ

らに悪化させた。獣医師の勧告によりマーブルは没収され、治療を受け、すぐに回復した。現在、新しい飼い主の下で大切に飼われている。

14. 子犬を飢餓状態にした無責任な10代の飼い主

2003年、サウス・タインサイド下位裁判所は19歳の飼い主（女性）に対し、12週令の雑種の子犬を必要な世話を与えず放置した（ネグレクト）罪で5年間の飼育禁止、15ヶ月間の条件付放免、RSPCAへの費用200ポンドの支払いを命じた。飼い主の両親が子犬、スウィープの状態に初めに気づき、急いで獣医に連れて行った。診療をした獣医師がRSPCAに通報し、RSPCA査察員の立会いの下で検査された。スウィープは痩せて



脱水症状を示し、筋肉も少なく、毛は薄く光沢はなかった。体重はわずか2.45kgで獣医師がお腹の周りを片手の指で

つかめるほどまで衰弱していた。すぐに点滴を受け、水とフードを与えると夢中で食べた。飼い主はスウィープをRSPCAに渡すことに同意した。9日間で体重は2倍になり、新しい飼い主を探せるまでに回復した。査察員は「明らかに飼い主としての責任感がなく、子犬の世話をする資格がない」と話した。

15. ウサギのネグレクトに対して飼育禁止

2004年、チチェスター下位裁判所はウェストサセックス州在住の夫婦（夫38歳、妻24歳）に対し、ペットとして飼っていたウサギ3匹に不必要な苦痛を与えたとして、3年間の動物飼育禁止、及びそれぞれにかかった費用205.75ポンドの支払いを命じた。



夫婦はウサギに適切な世話・環境を与えなかった（フード・水・獣医療等）ことを認めた。ウサギは恐ろしく不潔な箱で飼育されており、箱は重ねられていて、上の箱の尿が下の箱に漏れていた。ウサギの爪は伸びすぎ、痛みを耐えていた。ウサギは RSPCA に引き取られ、新しい飼い主が見つかった。

16. 怒り狂った飼い主に壁に投げつけられた子猫

2004 年、ロンドン・ハリンゲイ下位裁判所はロンドン市在住の飼い主（男性）に対し、3ヶ月令の子猫を壁に向かって投げつけて脚を怪我させ、子猫に不必要な苦痛を与えたとして6年間のすべての動物の飼育禁止と費用 125 ポンド、罰金 5 ポンドの支払いを命じた。

飼い主は、かんしゃくを起こし、若い三毛猫リリーに八つ当たりをしたと話している。RSPCA は通報を受け、子猫を獣医に連れて行った。リリーは RSPCA に引き取られ、新しい飼い主を待っている。



17.2 戸建住宅3ベッドルームのスワンジー・アニマル・サンクチュアリー

スワンジー在住の夫婦（夫 54 歳、妻 48 歳）は2戸建て公営住宅・3ベッドルームの自宅でアニマル・サンクチュアリーを営み、猫 56 匹、砂ネズミ 22 匹、ウサギ 20 匹、ヘビ 20 匹、タランチュラ 10 匹、ハムスター 10 匹、フェレット 9 匹、エキゾチックカゲ 5 匹、マウス 4 匹、ラット 3 匹、犬 1 頭を飼っていた。地元新聞に不要なペットのために安全な場所を提供していることを広告していた。2002 年に内報に基づき RSPCA が訪問したときの実況は、動物は不潔な家で、栄養



不良になり、適切な獣医療を受けることもできなかった。査察をした RSPCA 査察員は「この家の状態は、動物に置き換えた刑務所キャンプよりひどい」説明した。スワンジー下位裁判所は、夫婦に対し、163 匹の動物に不必要な苦痛を与えた 30 項目の罪で有罪とし、犬 1 頭、ウサギ 1 匹、猫 3 匹を除くすべての動物の生涯飼育禁止と3年間の条件付放免、費用 300 ポンドの支払いを命じた。猫 1 匹以外のすべての動物は没収され、その後、新しい飼い主が見つかった。夫婦は RSPCA による新しい飼い主探しを阻止するために上訴したが、取り消した。

18. 違法トラバサミを使用した元農場経営者に罰金

2004 年、バーンステイプル下位裁判所は、44 歳の元養鶏場経営者がキツネから鶏を守るために違法トラバサミ



を使用し、捕まったハリネズミを押しつぶしたことにに対し、野生哺乳類法 1996 に基づき罰金 350 ポンド、費用 200 ポンドの支払いを命じた。（元養鶏場経営者は違法トラバサミの使用がペスト法 1954 に違反していることも認めた）

19. 子猫がおぞましい虐待の対象に

2005 年、マーゲイト少年裁判所は、ケント州在住の 17 歳少年（当時 16 歳）に、7ヶ月の子猫に恐怖を与え、ひどい扱いをした罪で15年間のすべての動物の飼育禁止と4ヶ月間の少年犯罪者施設への拘留を言い渡した。

少年は、子猫のチャルキーを2階の窓から2回投げ落とし、ナイフで尾を切り、蹴り、毛をそり、洗濯機に

入れた後電気ヒーターで乾かした。チャルキーの飼い主（少年の継母）は何がチャルキーに起こったかを発見するなり、獣医師に連れて行った。担当した獣医師がRSPCAに通報した。獣医師はステロイドの注射をし、突出した唇の損傷に抗生剤を投与した。子猫の毛は固まって湿っており、脳震盪のように瞳孔は不安定であった。

翌日、チャルキーの体調は改善し、少し食べ、落ち着き、毛の固まりも解けたので飼い主に引き渡された。

20. 子犬の耳を切った少年に拘留言い渡し



2004年、ハリンゲイ下位裁判所は、ロンドン市在住の19歳の少年に、生後5ヶ月の飼い犬（スタフォードシャーブルテリア）ロッキーの耳をナイフで切り落とし、不必要な苦痛を与えた罪で42日間の少年拘留所拘留と10年間のすべての動物の飼育禁止を言い渡した。少年は子犬が前の週に別の動物と

けんかをし、片方の耳がぶら下がった状態だったので、切断したと主張したが、しかるべき注意と人道的な配慮なしでの処置の実行と必要な獣医療を与えるのを怠ったことで有罪。ロッキーは獣医の治療を受け、RSPCAの保護下に引き渡され、無事に新しい飼い主が見つかった。

21. 犬と認識できないほど毛がひどくマット状になったシーザー



2005年、バーミンガム下位裁判所は、犬の手入れをしないで放置し犬と認識できないような状態にしていたシーザーの飼い主（女性38歳）に不必要な苦痛を与えた罪で10年間のすべての動物飼育禁止と罰金200ポンド、費用682ポンドの支払いを命じた。

このシーザー・ギズモ10歳が発見されたとき、毛は伸び放題でからまって、尾と頭の区別がつかないくらいひどい状態であった。2年以上手入れやカットをされておらず、動かそうとすると、毛の伸びすぎにより、不快で目が見えないため、極度に攻撃的になっていた。

悲しいことに、獣医師は長い間閉じていたギズモの片方の目を除去しなければならなかった。ギズモは栄養不良で中程度に体重不足であった。

判事らは、ギズモが何年もこのような状態で放置されていたことを大変なことと思い、犬の苦痛を軽減できたはずと言った。また、被告人が犬をRSPCAに正式に引き渡さなかったという決断についても批判した。

ギズモは裁判所命令で没収され、RSPCAでまったく違う犬にかわいく変えられて、無事に新しい飼い主が見つかった。

22. 23頭の犬のネグレクトで10年間の犬飼育禁止

2004年、バーミンガム下位裁判所は、バーミンガム在住の54歳の女性に対し、飼っている23頭の犬を衰弱させ、犬に不必要な苦痛を与えたとして10年間の犬飼育禁止を言い渡した。



RSPCA査察員、警察官、バーミンガム市動物健康担当職員が家に入ったとき、アンモニアと糞尿の激臭に襲われた。汚い家の中には23頭の衰弱した犬が放されており、床板は尿につかっており、壁は糞尿でひどく汚れていた。すべての犬は同意の上RSPCAに引き渡され、RSPCAアニマルセンターに連れて行く前に、治療のために獣医病院に連れて行かれた。

23. 劣悪な状態の中国ガチョウの農場

2005年、ピーターバラ下位裁判所は、ホイットルサーにある劣悪な状態で900羽以上の商業用中国ガチョウを飼育している原始的な繁殖農場において、飼育担当している男性(32歳)が、彼のいとこの代わりに世話をしていた8羽のガチョウと5羽のアヒルに不必要な苦痛を与えた10



項目の罪で10年間のガチョウとアヒルの飼育禁止、罰金500ポンド、費用1500ポンドの支払いを命じた。

鳥の飼育場所は泥だらけで、わずかな設備(少量の乾いた藁や子ガモ・ガチョウの子・繁殖用の鳥のための寝床と原始的な給餌給水設備)しかなく、鳥の死体や、瀕死の鳥を発見し、ネズミが走り回っていた。また、この場所には、釘、壊れたフェンス、針金、殺鼠剤の容器など、危険な物も散らばっていた。多くの鳥は脚が不自由でやつれ、趾瘤症、皮膚病、羽先のダメージ、関節が腫れた状態であった。池の水質は基準をはるかに下回り(池にも鳥の死骸があった)、浄水システムはまったく不十分であった。

担当した獣医師は鳥たちは少なくとも1ヶ月以上、ひどく衰弱している鳥は長期にわたり苦しみに耐えていたと話す。残念なことに、90羽の鳥たちは早急に安楽死をせざるを得ず、その他はRSPCAに収容された。

24. ペットショップにおける虐待で刑務所へ



2005年ランカシャー州にあるペットショップの経営者が、店内で子犬9頭、子猫1匹、Bearded Dragon 1匹に対し11項目の不必要な苦痛を与えた罪を認め、裁判所は4週間の投獄と10年間のすべての動物の飼育禁止が言い渡された。

RSPCAは被告が数日間地下にある自分の店に来ていなかったため、近隣のショップ経営者から、問題の可能性があると通報を受けた。RSPCA査察員は店を観察し、24時間以上人が現れないのを確認後、警察に連絡、店に入る許可を得た。店内には多くの瀕死の状態の動物や死体があった。死体は子猫、ウサギ、げっ歯類、魚で、生きている動物は、Bearded Dragon 1匹、子猫1匹、瀕死の子犬9頭、内2頭の子犬はあまりにひどい状態ですぐに獣医師に診せなければならなかった。ケージ内に水や餌はなく、数匹は生きるための手段として共食いをしていた。

生きている動物は、RSPCAに引き取られ、回復し、新しい飼い主も見つかった。抗告審判において、最初の判決である3ヶ月の投獄と生涯の動物飼育禁止は、4週間の投獄と10年間の飼育禁止に軽減された。

25. おびえた犬が不衛生な家のトイレに繋がれた状態で発見

2005年、マンチェスター在住の母と息子(母74歳、息子40歳)は、彼らの飼い犬・15歳のコリーの雑種犬・トビーを誰もいない



彼らの別荘に放置し、飼い犬に不必要な苦痛を与えたとして、それぞれ10年間の動物の飼育禁止、2年間の条件付放免、費用250ポンドの支払いが言い渡された。RSPCAのインスペクターが発見したときには、犬はトイレに繋がれ、汚れており、衰弱して神経質になっていたため、すぐに獣医師に連れて行った。健康チェック、体重測定、シャンプー、爪きりをしたが、トビーは目と耳の感染、伸びすぎた爪、肉球・尾の下・後肢は尿やけをおこし、筋肉は落ち、被毛は汚れてひどいマット状になっていて、体重は8.5kgしかなかった。母子はト

ビーを RSPCA に渡すことを了承。獣医師は抗生物質・抗炎症剤を注射し、目と耳に軟膏をつけ、ビタミンとミネラルのサプリメントを加えた適切な食事を与えた結果、14.75kg まで回復し、新しい飼い主に迎えられた。

26. 27 匹の飼い猫の世話を家族が放棄

2005 年、ダービシャー下位裁判所は、サウス・ダービシャー在住の家族（夫 69 歳・妻 70 歳・2 人の息子 41 歳と 32 歳）が屋内に 27 匹の彼らの飼い猫を世話せずに放置し、6 つの不必要な苦痛を猫に与えたとして、4 人それぞれに、すべての動物（1 頭の犬と 1 羽のオームを除く）の生涯飼育禁止、300 ポンドの罰金と費用 240 ポンドの支払いを言い渡した。

RSPCA のインスペクターが彼らの家に行ったときには、数匹の成猫と子猫が目の感染症、呼吸の異常、重度のノミ感染を含む重篤な病気に苦しんでいた。1 匹の猫の左目は放置された緑内障のようで、大きく腫脹し、脱色していた。他の動物もひどく削瘦しており、正常であれば、少なくとも 2.5kg はなくてはならない体重が 1.34kg しかなかった。RSPCA のインスペクターは 11 匹の猫を獣医師の下に連れて行き、さらに 16 匹については、RSPCA に譲り渡すことを了承させた。

インスペクターは「このケースについて言えば、手に負えなくなったというのが理由だが、その原因は 1 匹も不妊去勢手術せず、ワクチンも打っていなかったことである」と述べた。

27. 自分の飼い犬を失明させたティーン・エイジャーが刑務所へ

2005 年、サウス・ウェールズ在住の男性（19 歳）が、自分の飼い犬・バフィー（スタフォードシャーブルテリア）を 4 インチの刃を持つジャガイモの皮むき器で殺そうと

した。彼は、判事に、バフィーを襲ったとき自分は神であると感じ、バフィーが家族を襲うと思ったので殺そうとしたと言った。RSPCA のインスペクターが男性とその母が住む家に行くと、バフィーの目は腫れ、顔面は打ち傷で被われていた。目と耳には 9 つの刺し傷があり、いくつかは感染していた。インスペクターはすぐさま犬



を近くの獣医病院に連れて行き、獣医師によって他にも刺し傷跡が見つかり、今回が初めての攻撃ではないことが証明された。その後、インスペクターは他の犬への 2 度目の攻撃でまたも同じ家に呼ばれた。今回は、彼の妹が、「兄が、もう 1 頭の犬キャシーの目を安全ピンで突き刺そうとした」と話した。

19 歳の男性は 3 ヶ月の投獄と 10 年間のすべての動物の飼育禁止が言い渡された。

2 頭の犬は RSPCA に渡され、新しい飼い主に迎えられた。

28. 犬が 15 フィートの高さのバルコニーから投げ落とされ、骨折

2005 年、ケンブリッジ在住の男性（21 歳）が、ガールフレンドの犬を 15 フィートの高さのバルコニーから投げ落とし、脚を 2 箇所骨折させ、3 年間の犬の飼育禁止、100 時間の社会奉仕、365.5 ポンドの費用の支払いを言い渡された。

彼は、犬がカーペットの上で尿を漏らしたことに腹を立て、バドというガールフレンドの犬（スタフォードシャーブルテリア）を投げ落としたことを認めた。ガールフレンドは町の RSPCA のクリニックに連れて行き、クリニックの勧めで、ケ



ンブリッジにあるクィーンズ獣医大学付属病院へ行った。クリニックで痛み止めを注射したにもかかわらず、痛みがひどく、さらに、薬を追加した。そこに RSPCA のインスペクターが呼ばれた。ガールフレンドは RSPCA に犬を譲り渡すことを認めず、抗炎症剤を処方してもらって、犬を連れて帰った。6ヶ月後、インスペクターが訪問すると、パドは骨をつなぐために前肢を外側から金属の支えでまかれ、締め付けられていたが、不快と痛みがひどいようだった。犬のギプスはとれていたもので、病院の獣医師はピンニングで接骨した。犬は新しい飼い主に迎えられた。

29. ペットショップの店主が高くついた裁判の末に生涯の飼育禁止



2005年、ノッティンガムのペットショップ経営者(男性62歳)が、2匹のヤモリと1匹のチャイニーズ・ウォーター・ドラゴンに不

必要な苦痛を与え、オーム3羽を不適切な小さなケージに閉じ込めたことを認め、すべてのハ虫類の生涯飼育禁止が言い渡された。

RSPCA インスペクター2人、獣医師1人、ハ虫類学者1人、警察官1人が彼のペットショップ(魚類専門店)を訪問。3羽のオームを小さなケージ内に見つけた。ケージがあまりにも小さくて、オームは羽を伸ばせない状態であった。ノッティンガム下位裁判所は様々な種類のハ虫類が、小さい、汚くて臭い環境に置かれていたとの証言を得た。35匹のハ虫類はすべて差し押さえられた。残った動物はすべて RSPCA の保護下に入った。2年後、保護管理費はほとんど 200,000 ポンドに達したが、ついに、動物は新しい飼い主の下に迎えられた。

この店主は動物に関する虐待で法律違反を犯した前歴があった。2003年に、BBC が放映した英国最悪ペットショップシリーズの中に出ていて、その結果、危険な野生動物法に対して3つの違反を犯したとして危険な野生動物のライセンスを5年間停止されていた。また、彼はライセンスを持たずに、このペットショップを営業して

いた。このショップは今売りに出されている。

動物保護法案の規定が実現すれば、このようなことが未然に防げるかもしれない。

30. 衰弱したサルーキー、ウィロー

RSPCAのインスペクターが通報により、2006年4月、ウェストサセックス州クローリーに住む夫婦(夫28歳、妻24歳)の家を訪問。ノックに対する反応はなかったが、とても痩せた犬がソファの上に横になっているのが見えた。犬は肋骨、骨盤、背骨全てが浮き上がって見え、犬の状態が心配だったので、警察官の助力を依頼した。警察官が到着したときには、夫がドアを開けた。

犬はすぐさま獣医病院へ。サルーキーの正常体重は20~30kgであるが、ウィローは13.7kgしかなかった。獣医師は「衰弱していて、体脂肪はなく、筋肉もほとんどない。」と報告。RSPCAのケアでウィローは22.4kgまで体重が増え、健康になった。

夫婦はウィローに苦痛を与えたことを認めたが、妻が病気で餌をやることが出来なかった上に、夫も仕事で忙しかったと言いつけた。ミッドサセックス下位裁判所は、夫婦双方に10年間の犬の飼育禁止と1,500ポンドの費用の支払いを命じた。裁判官曰く、「どんな動物虐待も哀れである。動物は飼い主にその世話を頼りきっているのだから。」



31. 飼い主に7年の飼育禁止



ビンス（2歳のロットワイラー）とデイガー（5歳のジャーマンシェパードミックス）は2頭とも脱水し、重度の体重不足で発見された。

犬達は、2日間、水滴でしのいでいた。

ウエストミッドランド州ダッドリー在住の女性（25歳）は彼女の動物に不必要な苦痛を与えた（2件）として、7年間全ての動物の飼育禁止と500ポンドの費用の支払い、及び、150時間のボランティアと4ヶ月間の夜8時から朝7時までの外出禁止が言い渡された。



32. 犬は生きていたが、猫は間に合わなかった

RSPCAのインスペクターは、信じられない状態の犬と猫を発見した。テラ（犬）は重度に脱毛し、ジャスパー（猫）は病気と衰弱で立つことも、動くことも、頭を持ち上げることすら出来ない状態であった。ビショップ



オークランドの下位裁判所で、飼い主の夫婦（夫64歳、妻62歳）は不必要な苦痛を与え、且つ、病気に対して獣医師によるケア



を与えなかったことを認めた。

裁判所は生涯の全ての動物の飼育禁止と125ポンドの費用の支払いを命じた。

ジャスパーはその苦しみを終わらせるために安楽死を選択せざるを得なかったが、テラは新しい飼い主に迎えられ幸せになった。

33. グランナショナルの勝者が馬の虐待で有罪

通報のあった競走馬牧場の馬は、左後肢のかかとのうしろの傷が化膿し、体重をその脚にかけることが出来ず、脚の上部・骨盤周りの筋肉の消耗も激しい状態であった。証拠が適切な傷の治療を与えていなかったことを示していた。あまりの重傷であったので、悲しいことに、安楽死を選択せざるを得なかった。



この競走馬に責任のある、グランナショナル勝者のジョッキー・馬の所有者・トレーナーは牧場で飼育している競走馬に不必要な苦痛を与えたままにしていたことを認め、ダートハム下位裁判所はそれぞれに、2年間の条件付放免と14,731ポンドを言い渡した。競走馬牧場で飼育している馬が不必要な苦痛を受けているのを放置したことに対して、毎日の世話に関するスタッフだけでなく、所有者が責任を認めたことは一歩前進。



34.高齢犬の悲しい最後



南ヨークシャーに住む65歳の男性が10歳のオスのコリー犬を遺棄したことに對して21日間の拘留、不必要な苦痛を与えたことに對して21日間の拘留、5年間の全ての動物の飼育禁止が言い渡された。

通報により、RSPCAのインスペクターが現地に赴くと、重度の体重不足で餌も水もベディングも与えられていない犬を発見した。犬（ブレイドと呼ばれている）を小屋につないでいるチェーンはあまりに短く横になれない。また、ブレイドは歯茎にプラム大の腫瘍ができていた。男性は、インスペクターが気付く1週間前に犬を遺棄したと告白。状態の重篤さから、獣医師は安楽死をアドバイスした。

「ひとりで残されていた1週間、ブレイドは考えられないほど苦しんでいたに違いない。彼の腫瘍は腫れて出血していましたし、餌も水も与えられず、外につながれてこの冬の凍りつくような天候にさらされていたのですから。」とインスペクター。

35.犬に猫を殺させたティーンエイジャーに對して拘留

ハダースフィールド下位裁判所はウエストヨークシャー在住のティーンエイジャーに少年院における4ヶ月の拘留と20年間の全ての動物の飼育禁止を言い渡した。

彼のスタフォードシャーブルテリアに猫を残忍に殺させているのが監視カメラに捕らえられたのであるが、裁判官は犠牲になった猫（ティガーと呼ばれていた）が



ひどい苦痛にあえぎ、恐ろしい死に至った状況と、被告が、その間何もせず横に立って見ている最後の状況が写っているその長

さにショックを受けた。「この判決は裁判所がこの犯罪の重大性とティガーが死ぬまで放置された恐ろしい残酷な方法を認識したことを示している」とインスペクター。

36.病気のスタッフィーを販売広告

チチェスター下位裁判所は、ウエストサセックス州チチェスター在住の夫婦に2頭のスタフォードシャーブルテリアの子犬に不必要な苦痛を与えたとして2年間の全ての動物の飼育禁止と1,150ポンドの費用支払いを命じた。

この夫婦は彼らのスタフォードシャーブルテリアが産んだ一腹の子犬たちのうちの2頭に獣医療を与えなかったことを認めた。ガートルード（写真）とネリーはダニと結膜炎に冒されていた。RSPCAへの通報は地域のフリーペーパーに販売広告が掲載されていたのを見て、買うために彼らのところを訪れた人からであった。RSPCAのインスペクターは、全ての子犬と母犬、成犬2頭をRSPCAに譲渡するように説得し、健康回復後、すべて新しい飼い主に迎えられた。

